

# 小中一貫教育推進モデル事業<深谷市川本中学校区> 研究の概要

## 【研究主題】

「小中学校9年間の学びと育ちの連続性を重視した指導法の研究」  
～ふるさとを愛し、志高く生きる川本のこどもたち(目指す児童生徒像)～

## 【主題設定の理由】

深谷市川本地区は埼玉の母なる荒川が東西に流れ、その南北に川本南小学校と川本北小学校、そして中央付近に川本中学校が位置している。学区には多くの自然とともに、遺跡や郷土の偉人として、鎌倉武士の畠山重忠や江戸時代の和算家である藤田雄山など、先人たちの生活と伝統を伝える歴史的・文化的な遺産を多く残している。川本地区の小中学校3校は、旧川本町からの古き良き伝統を引き継ぎ、地域に根ざした教育を実践している。

一方、近年は小学校から中学校に進学するにあたり、学習内容や生活リズムの変化になじむことができず、学習意欲が低下したり不登校などの学校生活に適応できない児童生徒が増えたりするなど、いわゆる「中1ギャップ」が課題となっている。この原因としては、小中学校の違いである学級担任制から教科担任制への移行にともなう学習面でのつまずき、部活動や学校行事等に関する生活リズムの変化、心身ともに著しく成長する生徒自身のとまどい、2つの小学校から集まってきた児童が友だちになるための社会的スキルの欠如などが考えられる。

そこで、この課題を解決するために、小中学校が共通の目標のもと、義務教育9年間の連続性や系統性を重視した小中一貫のカリキュラムを開発するとともに、児童生徒間の交流を深め、3校の教員同士が連携し、積極的に指導方法等を改善することを目指して本研究主題を設定した。

## 【研究の仮説】

川本中学校区の小中学校3校において、共通の目標のもと、9年間の学びと育ちの連続性を重視したカリキュラムによる指導方法の改善など、なめらかな接続を行えば、児童生徒の確かな学力が向上し、いわゆる「中1ギャップ」の解消につながる。

## 【研究の目的】

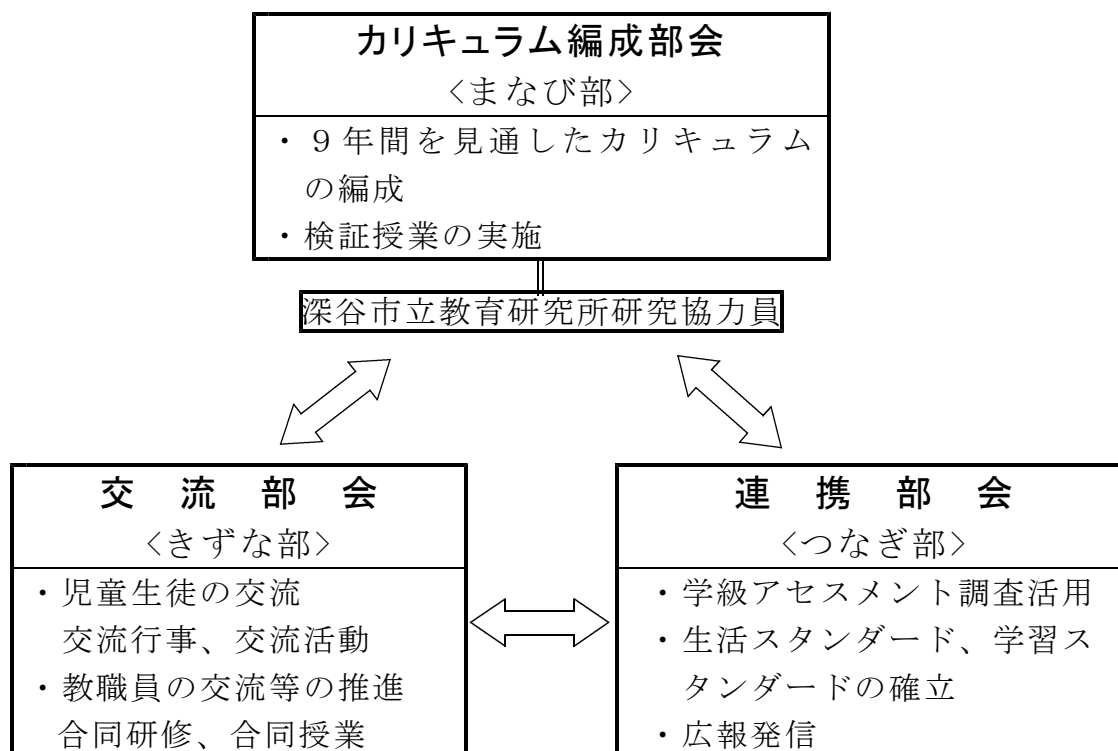
◎確かな学力の向上

- ・基礎的基本的な知識・技能の習得とそれらを活用して思考力、判断力、表現力等を身につけさせる

◎いわゆる「中1ギャップ」の解消

- ・不登校生徒の減少や自己有用感の醸成など

## 【研究の組織】



## 【研究の内容(具体的取組)】

- 国や県の学力調査結果の分析と活用
  - ・ 埼玉県小・中学校学習状況調査、全国学力・学習状況調査、教育に関する3つの達成目標の活用
- 義務教育9年間を見通したカリキュラムの編成・実施・評価
  - ・ 全教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間
- 児童生徒の交流
  - ・ 合同行事、合同授業
- 教職員の交流による授業改善
  - ・ 3校合同研修、授業参観等による指導方法の改善
- 小学校における教科担任制、小中教員によるティームティーチングの導入
  - ・ 理科専科教員、家庭科教科エキスパートの配置等
- 校種間接続学年における学級アセスメントの実施
  - ・ Q-Uテスト、児童生徒意識調査等
- 各教科等における独自教材の開発と実施
  - ・ 学習内容の系統性や関連性の検討による子どもたちのつまずきの発見 → 「つなぎ教材」の開発と実施